# 学校だより

2025.2.28　No.141

〒674-8501　明石市魚住町西岡679-3
明 石 高 専
https://www.akashi.ac.jp

全国高専体育大会（於　北海道）

## ～　目　次　～

校長講話 …… 2
高専体育大会報告 …… 3
学生行事 …… 4
卒業・修了にあたって …… 5
新任教員挨拶 …… 7
教員表彰報告 …… 7
３年生合宿研修報告 …… 8
５年生見学旅行報告 …… 9
各種大会・コンテスト報告 …… 10
海外留学報告 …… 12
国際交流活動報告 …… 13
図書館より …… 14
校内短信・行事予定・学生表彰 …… 16

編集・発行：独立行政法人国立高等専門学校機構　明石工業高等専門学校　広報委員会

# 校長講話

## 魚住雑考3

校長　土居　信数（どい　のぶかず）

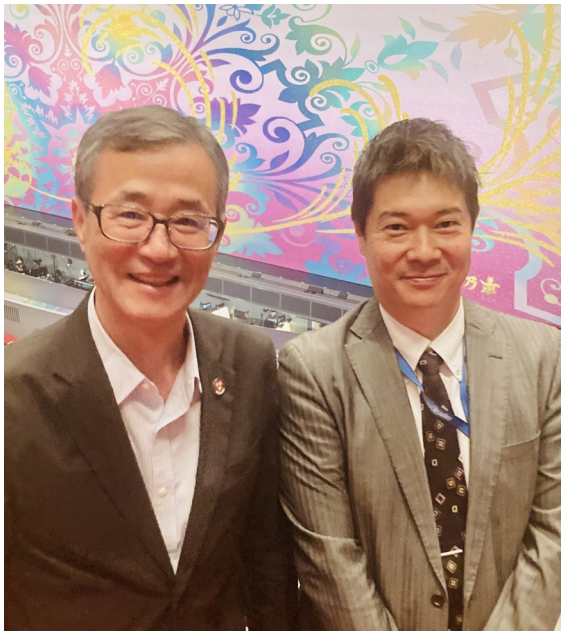
□むなしいファスト教養

周りの人との会話についていくためだけに映画を早送りで観る。周りの人から注目されたいだけに評判の本をYouTubeで調べる。こうした、いわゆる「ファスト教養」が流行っているそうだ。何ともむなしい。教養は時間をかけて、ゆっくり熟成させなければ身につくものではない。

すこし前になるが、気になっていたトルストイの「戦争と平和」を読んだ。これは19世紀のナポレオン戦争を背景にしたロシア貴族社会の動静を描いたトルストイの代表作である。アレクサンドル一世から一従卒まで、全登場人物559人を個性豊かに生き生きと描いている。全四巻からなる大作で、かなり読み応えがあった。一読しかしていないので、まだよく理解できていないが、少なくともYouTubeを観るよりもこの名作と長く触れ合うことはできた。

どうしてこんな世知辛い世の中になってしまったのだろうか。今はスマホさえ持っていれば、いつでもどこでも大抵の情報は手に入れることができ大変便利になった。私が若い頃は、学会発表ではスライドやOHPを使用していた。資料は手書きか、ワープロで印刷したものを切り貼りして作った。当時、欧米企業の研究者が、Kodak社製のきれいなカラースライドを用いて発表していたのを羨ましく思ったものだ。いまでは、誰もがパワーポイントを使ってきれいな資料を簡単につくることができる。動画も挿入することもできる。内容はともかく見栄えは格段によくなった。しかし、楽になったかというとそんな実感は全然ない。求められる完成度が高くなり、昔よりもずっと時間を取られるようになった。便利にはなったが、忙しくなった。資料の見栄えをよくしたり、「えせ教養」を仕入れたりしないと、うまくやっていけなくなった。しかし、こんな社会でよいはずがない。急がば回れである。皆さんには、是非、「真の教養」を身につけてほしい。とりあえず、図書館に行こう！

□実り多き芸術鑑賞研修



今年度の２年生の芸術鑑賞研修は宝塚歌劇団に行くことになった。宝塚大劇場が宝塚市にあることは誰もが知っているが、そこで実際に公演を観た人は意外と少ないようだ。今回は、花組公演で、舞台装飾は豪華絢爛、衣装はきらびやか、出演者の歌や踊りは超一流で見事だった。トップを務める永久輝せあ（とわきせあ）さんのダンスはキレキレでとくに魅力的だった。個人的には、この公演を観るのは今回が３回目だったが、学生たちがどのような反応をするか気になり同行させてもらうことにした。しかし、心配はまったくの杞憂に終わり、学生たちは舞台にくぎ付けで、目を輝かせており、十分な手応えを感じた。後日、学生たちの感想文を見せてもらったが、「初めて鑑賞したが、これまでのイメージが覆り素晴らしい機会となった／感動し、魅了され、衝撃を受けた／自分の中に新たな視点が生まれた」など、好意的な感想がほとんどだった。学校の勉強が大切であることは言うまでもないが、多感な時期にこうした一流の芸術に触れることも、人として成長するためには必要である。

ただ、参加しなかった学生が一定数いたらしい。聞き取りをしたところ、欠席の主な理由は研修目的や研修先の説明が不十分であったそうだ。来年度は、このようなことのないようにしたい。

# 高専体育大会報告

## 寒い冬に暑い夏のことを思い出しています

**学生主事　穐本　浩美（あきもと　ひろみ）**

今年度の高専体育大会のことを思い起こしながら原稿を書いています。

でも今はもう12月なのでかなり寒くなってきました。そのため暑い夏に熱い試合を繰りひろげた高専大会のことを書くのは季節的にちょっと無理があります。それに夏の熱い思いは時間とともに冷めてしまいますから、思い出す努力が必要になりますね。原稿締め切りがすぐそこまで迫っていますので、シューズのきしむ音やボールを奪うときの音、交錯したときに飛び散る汗を思い浮かべながら思いつくことを書いてみます。

この夏、全国高専大会で熱い経験をしたのは、陸上競技、卓球、柔道、剣道、硬式野球、サッカー、ハンドボール、テニス、バドミントンでした。陸上競技女子800メートルで一位に、卓球の女子団体、女子シングルスも三位に入賞しました。おめでとうございます。正門を入るとすぐ目につく所に懸垂幕を掲げて陸上女子800メートル一位の堤円花さんの栄誉を称えています。その隣にはスポーツクライミング競技で入賞した懸垂幕もあります。高専大会ではありませんが、こちらも大変立派な活躍ですね。少し前までは全国大会に進んだ上述の団体の名前を懸垂幕に記して掲げていました。これまでこの懸垂幕はデザコンや英語プレゼンテーションコンテストの上位入賞者を称えてきました。これからも懸垂幕がもっと華やかになることを願っています。

高専大会を観戦していて羨ましく感じることがふたつあります。ひとつ目は一緒に戦う仲間がいるチーム競技に魅力を感じている点です。一緒に喜んだり悲しんだり出来るチームメートがいるのはいいなあ、といつも感じているのです。きっと十年後、二十年後にチームメートが再会した時、「あの試合でお前がシュートをはずしたから負けた」なんて笑いながら思い出を語り合えるのですね。チーム競技に取り組んだ人たちは、おそらく将来働き始めたときにその経験が役に立つと思います。私は個人競技をやっていたので若い頃にチームで感じた苦労がほとんどありません。そのせいかもしれませんが、今もチームでやっていく難しさを感じています。

ふたつ目はエネルギーの出し方です。スポーツは対戦相手がいるので外に向けてエネルギーを放出することが出来ます。実に明るくて健康的ですね。これは正しいエネルギーの使い方で不純物が自分の中から出ていきます。このあとの「図書館より」のページでも書いているのですが、私は本が好きなのでその世界に入り込んでいくことがあります。そうなるとエネルギーが自分の内に向けて出ていくので、深く物を考える時間を持てる反面、外との接点が希薄になり気持ちを切り替えるのが難しくなります。プラス思考が自分の中に定着するのはいいのですが、マイナス思考に支配されると苦しくなりますね。そんな時は体を動かすのがいいのかもしれません。

スポーツがいいのは競技の技術を高める過程でたくさんのことが学べる点だと思います。体力がつくのはもちろんですが、その先にある忍耐力や思慮深さ、まわりへの気遣いや他者への労り、人として欠かせない要素が知らず知らず自分の中に育まれるのだと思います。５年生にとっては今回が最後の大会となりましたが、４年生以下の皆さんにはまだまだ熱い思いを経験するチャンスがありますね。時間は平等なので悔いのない高専生活を送って下さい。

# 学生行事

## 私たちの最良のスポーツ大会

**学生会執行部体育局長　建築学科　2年　稲垣　泰羽（いながき　やすは）**

今年度も天候に恵まれ、スポーツ大会を開催することができました。開催にあたり、教職員や学生の皆さんからたくさんの協力をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。

今年度のスポーツ大会では、昨年度の反省や皆さんからいただいたご意見をもとに、ルールやタイムテーブルの変更などを行いました。特に今年度から１年生から５年生、専攻科生で実施するリレーと綱引き競技のチームを混合学級の1、２年生も学科ごとで実施することとなりました。応援などを通して、学年の垣根を超えて学科ごとに団結できたのではないでしょうか。また、１、２年生も普段関わることが少ない学科ごとのクラスで仲を深めることができたのではないかと思います。

さらに、今年度は安全対策を強化し、ラジオ体操の実施や十分な休憩時間の確保などを行いました。そのため怪我は少なく、安全にスポーツ大会ができたのではないかと思います。しかし、各競技のルールで多くの制限が生じてしまったため、来年度からは安全対策と自由さを併せ持つようなルールの作成を検討したいと考えています。

私事ですが、今年度はスポーツ大会を担当する体育局の学年構成の関係により、ほとんどの局員が昨年度のスポーツ大会の運営を経験していませんでした。そのため、当日までの準備の時期やメールの送り方などを先輩方から教えていただきました。失敗することが多く、何度も変更を行い、度々ご迷惑をおかけしました。それでもなお、準備や運営ではたくさんの協力をいただき、無事スポーツ大会を執り行うことができました。体育局長を経験したことは、私にとって最高の思い出になりました。

来年度のスポーツ大会では、学生の皆さんからいただいたご意見をもとに、改善案を検討し、より楽しむことのできるスポーツ大会を考えていきます。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これからも学生会執行部の活動にご協力いただけますと幸いです。

---

## 明石高専祭「VOLTAGE」を終えて

**高専祭実行委員長　電気情報工学科　4年　開發　啓人（かいほつ　けいと）**

2024年11月9日、10日、快晴の空の下、明石高専祭「VOLTAGE」を開催しました。外部来場者は２日間で延べ約6000人、多くの方々に学生生活の結晶である高専祭をご覧頂くことができました。

私自身、「祭」という熱い催しが好きで、「一年に一度、学生のエネルギーが爆発する高専祭を、中心となって素晴らしいものにしたい！」という思いで実行委員長に就き、一年間務めさせて頂きました。たった二日間の高専祭ですが、昨年度の高専祭が終了してから約一年の間、企画・準備を行ってきました。昨年度の反省を踏まえた改善案の検討、一年生を中心とした新しいイベントの企画など、高専祭実行委員会全員で取り組んできました。環境へ配慮したリユース食器の採用、ポスターやSNSなどによる高専祭の認知度の拡大、二日間を通してどの時間帯でも高専祭を楽しむことのできるタイムスケジュールや学内配置の設定など、様々な工夫を凝らしました。展示やバザー、ステージでのイベントは、学生の皆さんのご協力で大いに盛り上がるものになりました。ご来場くださった皆様に活気ある学生の姿をお見せすることができたと思います。

最後になりますが、あたたかくご指導くださった先生方、様々な面でサポートしてくださった職員の皆様、ご協賛頂いた企業の皆様、高専祭を盛り上げてくださった学生の皆さん、一年間企画・準備に尽力してくれた高専祭実行委員会の皆さん、本当にありがとうございました。多くの方々のご協力により、最高の高専祭を作り上げることができました。今後とも高専祭実行委員会をどうぞよろしくお願いします。

# 卒業・修了にあたって

## 混浴

**機械工学科　5年　小山　櫂（こやま　かい）**

私と高専の５年間は、私の生涯で最も学びのあるものでありました。振り返ってみれば１年生、我々は入学式と滋賀で過ごすはずであったクラスメイトとの初の旅行をコロナによってパーにされたコロナ直撃世代最後の生き残りです。受験戦争を勝ち抜いた我々は華々しいスタートダッシュを挫かれ、自主的に勉強ができる人間とできない人間、その差が１年生にして露呈したように感じます。

しかし、私にとってその日々は今までにない経験、普通校で凡に過ごし、振れ幅のないまな板のようなつまらない人生を送るようならばと考え高専に入学した私にとって、オンライン授業期間はまさに驚きの毎日。各教員によって異なる配信方式を採っており、我々学生のみならず教員も慣れるまでは試行錯誤されていたのをよく憶えています。時にはその配信サービスの形態に翻弄され、今では笑ってしまうほどの大ミスに当時は一喜一憂したものです。

そんな逆張り天邪鬼男が高専で得た蓬莱の玉の枝、もちろん授業で得た知識は言うまでもないですが、そんな尊き授業の数々に並ぶもの、それは人間です。陳腐な答えのように感じるかとは思いますが、高専にいるような人間に対してはその限りではありません。個性の光る高専生や教員の方々。時に腹を抱えて笑い、時に己を律する反面教師として学びを得る、高専での５年間を濃密に支えてきてくれたのはそういった人間との日々の数々でした。

人生は、混浴です。いろんな人がいる。私はそんな混浴に入りたい。

## 仲間と紡いだ5年間

**電気情報工学科　5年　渡邉　航輔（わたなべ　こうすけ）**

私の明石高専での５年間は、仲間とのつながりの大切さを学んだ日々でした。岐阜県から初めて関西へ来て、初めて寮生活を送るという未知の環境。期待の裏側には不安もありましたが、それはすぐに霧散しました。入寮後、私は自然と多くの仲間たちと打ち解け、共に学び、遊び、笑い合いました。

試験前は深夜まで勉強会を開き、互いを鼓舞し合う。試験が終われば、朝までゲームに興じる。そんな、学生らしい潮寮での日々が、今でも鮮やかです。さらに寮生以外とも積極的に交流し、３年時には情報工学研究部で、仲間たちと部活の在り方を試行錯誤しながら活動を盛り上げていきました。そこには、仲間と共に何かを創り上げる喜びが確かにありました。

しかし、人生とは移ろいゆくものです。卒業が近づくにつれ、寮を出る者、高専を離れる者が少しずつ増えていきました。それまで当たり前だった仲間との声や笑顔は年を追うごとに薄れていき、かつて活気に満ちていた寮が静けさに包まれていく様は、私の心をえぐりました。その変化は、１人の時間が好きな私にさえ、人は独りでは生きられないという現実を突きつけてきました。仲間とのつながりがいかに大切かを、私はこの場所で学んだのです。

20歳を迎え、人生100年時代の1/5を歩み終えた私は、これから先もさまざまな出会いと別れを経験するでしょう。しかし、明石高専で築いた仲間との思い出は私を力強く支えてくれます。その温かな記憶を胸に、今後のより良い出会いに期待しながら私はここを巣立っていきます。

## ありがとう、そして

**都市システム工学科　5年　村上　奨（むらかみ　しょう）**

明石海峡大橋大好きで入った明石高専だったものの、友人や仲間、自分を取り巻く環境の大切さを何よりも感じた５年間だった。こんなことを面と向かって言うタイミングもないので、文章という形で残しておく。

明石高専に入ってからというものの、優秀だ優秀だと散々持て囃されてきたが、本当に優秀なのは我々学生ではなく、教員の方だ。授業の質だけではなく、課外活動やそれ以外のところでのサポートがとても手厚かった。授業外でも気軽に話しかけて頂いたし、先生方が学生だった時代のお話は特に面白かった。多くのコンテストや競技にも積極的にご助力してもらい、楽しく活動させてもらった。面倒を見ていただいた先生方には感謝しかない。正直、散々迷惑をかけてきたと思うし、好き勝手にやってきたと自覚している。今までお世話になってきた先生方に堂々としていられるよう、これからも努力し続けなければならないと思う。

私は友人にも恵まれた。デザコンやインターンシップ、大学受験など、様々な経験を通してより一層その思いが強くなった。辛い時、苦しい時に踏ん張れたのはこの５年間を一緒に過ごしてきた友人がいたからだ。きっと今だけの関係じゃないのだと思う。これからの時代を担う良き同志であり、高め合うライバルであり、一緒にバカをやれる数少ない友達だ。改めて、ありがとう。お前らと一緒で良かった。

１人では到底やり切れなかったことが多すぎて、これからこの環境なくして生きていけるのか自信がない。多分無理だと思う。それくらいかけがえのないものだった。そして、これからもよろしく。

# 卒業・修了にあたって

## 天晴！！

**建築学科　5年　山本　真幸（やまもと　まゆき）**

私たちの高専生活はコロナ禍に始まった。初めてのクラスメイトとの対面も、初めての授業もオンラインだった。訳の分からないパソコンと孤独に戦い、pdfやjpegなど初めて聞く単語に翻弄されながらスタートした。そんな中、突然メールが届き、私はクラスの委員長になることとなった。初登校は７月、不安と期待でいっぱいだった。マスクを着けたクラスメイトにやっと会うことができた。次第にコロナ禍は過ぎ去り、３年生での合宿研修や高専祭でのトトロ製作、５年生での韓国への見学旅行、たくさんの楽しい日々を過ごすことができた。コンペや課題に追われて辛い時でも、独特の団結力を発揮して、明るく乗り越えてきた。私が卒業まで委員長を務められたのは、素晴らしいクラスメイトがいてくれたからだと思う。クラスでは、ひとりひとりが得意な場面で活躍し、輝くことができた。まさに天晴である。これから続く長い人生でも、私たちは輝き続けるに違いない。また、学校生活を支えてくださった教職員の皆さま、本当にありがとうございました。

## 7年間の日本留学を振り返って

**機械･電子システム工学専攻　2年　THANYATHON　TERMSRIWARANON（サーイ）**

７年間の日本留学生活は、多くの学びと挑戦に満ちた日々でした。タイ政府奨学金留学生１期生として来日した当初、言語や文化の違いに戸惑い、慣れない環境での生活に苦労しましたが、先生方の温かいご指導や友人たちの支えを受け、少しずつ適応し、困難を乗り越えることができました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。専攻科では、自分の専門外の分野に挑戦する不安がありましたが、先生方の丁寧でわかりやすい指導のおかげで、新しい知識を楽しく学ぶことができました。特に学会発表では、自分の研究を多くの方々に伝える難しさとやりがいを実感し、また海外インターンシップでは、国際的な視野を広げるとともに、自分のスキルを実践的に活かす貴重な経験を得ることができました。これらの経験を通じて、専門知識に加え、柔軟な思考や問題解決能力を身につけることができたと感じています。さらに、日本での生活を通じて、多文化に触れ、日本の方々との交流を深める機会にも恵まれました。学校行事や地域イベントへの参加を通じ、日本の文化や価値観を学び、それを自分自身の成長につなげることができました。この７年間で得た知識、経験、そして多くの方々とのご縁は、私にとってかけがえのない宝物です。これからは、この経験を活かし、タイと日本の架け橋として社会に貢献していきたいと考えています。最後に、この７年間支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

## 乾坤一擲

**建築･都市システム工学専攻　2年　加藤　匠（かとう　たくみ）**

高専に入学してからの７年間はまさに波瀾万丈でした。入学当初、私は自分を一騎当千の「人財」と思っていましたが、実際には徒労無益の日々を過ごしていました。周りには勉学はもちろん、さまざまな活動に励んでいる気炎万丈の友人が多く、彼らが竜騰虎闘する姿を見て、そのおかげで発奮興起することができました。このような毎日を送る中で、共学共育し、皆がまさに車の両輪となることができました。しかし、専攻科に進学してからの２年間は竜頭蛇尾の時間となってしまいました。クラスメイトの大半が大学院進学を目指していたため、私は彼らと共に磨礪奮闘し、飛躍進展を遂げることができました。しかし、大学院に合格してからは惰眠安逸の生活を送ってしまいました。それでも今となっては、光陰如箭の中で、この時間がかけがえのないものだったと感じています。この経験は、まさに一期一会の貴重なものであり、千載一遇の機会として心に刻まれるでしょう。今後の人生においても、困難に直面した際には、この記憶が心機一転のきっかけとなり、勇猛果敢に立ち向かうための支えとなるに違いありません。まさに、不撓不屈の精神を呼び起こす糧となると確信しています。

# 新任教員挨拶

## ご挨拶

**都市システム工学科　小野　暁（おの　あきら）**

10月に着任しました小野と申します。よろしくお願いします。少し変わった経歴かと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、民間企業と行政の両方を各々10年以上経験してきました。

民間企業への就職活動時は就職氷河期の真最中で、また私の世代は団塊ジュニアと呼ばれ、同期の人数が圧倒的に多い状況でしたので就職するのが大変だったことを思い出します。大学の専攻とは異なっていたのですが、指導教員に相談し総合建設コンサルタントに就職しました。会社では１からのスタートで、経験を積みながら混沌とした社会をどのように生き抜いていくかを考えながら仕事をしていました。会社での仕事の内容は、主に地盤や環境関係での実務対応でしたが、研究業務も経験させて頂きました。

その後、社会人経験者の枠で地方自治体に転職しました。行政では主に環境保全、産業廃棄物、保健衛生等、環境全般の調査・規制・監視や住民対応、内外調整等を行いました。また、民間、行政での業務経験を活かして、節目ごとに技術士という国家資格も取得してきました。研究面でのブランクを取り戻しつつ、まずは就職・進学や資格取得に関してのキャリア的な側面から貢献していければと考えています。

このたび有難いご縁がありまして、本校の一員に加えて頂きました。早く学生の皆さん、教職員の皆さんのお役に立てるように取り組んでいく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

## ご挨拶

**建築学科　江本　弘（えもと　ひろし）**

11月に着任しました江本です。建築学科で建築計画や設計、建築史を担当する予定です。

大学では近代建築史を研究していました。といっても、建物そのものを扱っていたのではありません。大学の卒業論文は立原道造（1914-1939）という、夭折の詩人・建築家の大学生時代の素行を調査。修士論文と博士論文ではそれぞれ、ジョン・ラスキン（1819-1900）という19世紀最大の建築理論家についての、日本とアメリカでの評価の変遷（「嫌われ方」…）を100年前後ぶんまとめました。最近は、「Shibui（渋い）」という言葉が世界に広まっていく過程を調べる沼にはまっています（これにも100年の歴史があります）。

僕はすぐれた設計者になりたい（でありたい）。しかし工学としての建築に、そんな知識は必要ない。芸術としての建築にも多分必要ありません。ところが僕は、そんな瑣末なことにハマり熱中して調べることを、やめることができない。いつか思いきりました。それもまた、工学・芸術としての建築への理解を深めるための重要な手がかりなのだと。本当かどうかはわかりません。ですが、そう信じてこの分裂に収拾をつけようと工夫する人生は面白いです。

前任校は美術系の大学で、工学系の建築学科で研究室を持つのは初めてのことです。徹頭徹尾「工学としての建築」を教えなければいけないのかなと思っていましたが、明石高専の初代校長が建築史学者の村田治郎（1895-1985）だということを知り、安心するとともに視界がひらけた思いになりました。

これからよろしくお願いします。

追伸。新任のご挨拶として、図書館に新刊の『建築をあたらしくする言葉』を献本しました。江本はここに【歴史】の項目を寄稿しています。ぜひ読んでみてください。

## 自己紹介

**電気情報工学科　Gebremedhin Atsede Gebreegziabher（ガブラマテイン アセド ガブラザビエル）**

I am originally from Ethiopia, where I started my academic journey as a university lecturer. With a strong desire to deepen my expertise, I moved to Japan to pursue a Ph.D. at Osaka University, which I successfully completed. After earning my doctorate, I worked as a commissioned researcher at Toyota Technological Institute and later returned to Osaka University as a specially appointed researcher. In November of this year, I joined the National Institute of Technology (Akashi College) as Assistant Professor, bringing my passion for teaching and a commitment to nurturing the next generation of innovators. Beyond academia, I am enthusiastic about interacting with people from diverse backgrounds and exploring different cultures World-wide. Through my work, I aim to combine my love for education with a global perspective to inspire students and create meaningful connections. Thank you for welcoming me to Akashi KOSEN.

# 教員表彰報告

| | | |
|---|---|---|
| 所属・氏名 | 建築学科・平石　年弘 | 令和６年兵庫県功労者表彰（教育功労） |

# ３年生合宿研修報告

## 合宿研修を終えて

**機械工学科　3年　安岡　光希（やすおか　こうき）**

私たち機械工学科３年が訪れたのは航空自衛隊浜松広報館エアパーク、長島スパーランドです。１日目で訪れた航空自衛隊浜松広報館エアパークでは、歴代の戦闘機や航空機、ミサイルなどの装備品をはじめとして、ブルーインパルスのシミュレーターやVR映像、映像シアターなど様々なコンテンツを見学することができました。戦闘機や航空機に興味がある人もとても多いので非常に楽しく良い経験ができたのではないかと思います。

航空自衛隊浜松広報館エアパークの見学が終わると我々はその日の宿である時忘れ開花亭にチェックインしました。ここでは豪華な食事や露天、サウナをはじめとする６種類もの温泉を楽しむことができました。また、部屋ではUNOや大富豪、ボードゲームをしたり、当館に備えてあった卓球やゲーム機をして楽しい時間を過ごしました。中には実験のレポートに追われる高専生らしい人もちらほら、いやかなりの人数いたような気がしますが時を忘れるようないい時間を過ごすことができたと思います。

２日目はメインといっても過言ではないであろう長島スパーランドに行きました。スチールドラゴンや白鯨をはじめとする様々なアトラクションを満喫し、友達との仲もよりいっそう深まったのではないかと思います。本当に楽しい時間を過ごしました。

このような楽しい旅行を計画してくださった皆様、本当にありがとうございました。

## モエチャッカファイヤ

**電気情報工学科　3年　乗松　潤（のりまつ　じゅん）**

合宿研修で訪れた徳島と岡山は、どちらも魅力的な場所でした。そして、それぞれたくさんの場所に行きましたが、ここでは特に印象に残った２つを紹介したいと思います。

徳島では、南阿波サンラインモビレージを訪れ、宿泊しました。ここでは、徳島のハローズで購入した食材で、自炊を体験しました。僕たちの班では、バターチキンカレーとスモークチーズを主に作りました。スモークチーズを作る際には、実際に野外に出て火と桜チップを用いて燻製をしました。本当はソーセージも燻製しようと思いましたが、ソーセージの油で火が燃え上がり、燻製ではなくただの焼肉になったので中止になりました。自炊をする際、様々な出来事がありましたが、それは普段体験することが出来ないことであり、とてもいい経験になりました。

岡山では、マスカット狩りも体験しました。新鮮なマスカットをその場で味わうことができ、果物の甘さとジューシーさに感動しました。（しかし、一房すべてをたべきるのは18歳男子でも苦労しました。）（岡山では、後楽園も行きましたが自分が若すぎて日本庭園の趣をあまり感じられませんでした。あと30年ほどたったらもう一度訪れたいと思います。）

今回の研修旅行はほとんど大向先生が考えられたもので、最初は自分たちで行き先を決められないのかと戸惑いましたが、大変良い思い出になりました。大向先生、ありがとうございました。

## 非日常な2日間

**都市システム工学科　3年　大平　煌陽（おおひら　こうよう）**

授業日より１時間も早く集合し、僕たちのクラスは東海方面に向かいました。賑やかなバスの雰囲気のまま、まずは京都の八幡にある新名神高速道路の工事現場の見学に行きました。とてもスケールの大きな現場で、多くの学びを得られました。真面目に見学しながらもみんなの心は、午後の名古屋港水族館や、２日目のナガシマスパーランドにあったと思います（僕はそうでした）。水族館ではイルカショーや、かわいいペンギンを見て癒され、ナガスパのアトラクションでは友達と一緒に絶叫して楽しみ、時間が一瞬に感じられました。帰りのバスは行きとは打って変わってぐっすり眠る人が多く、楽しい思い出が詰まった充実感でいっぱいになりました。中でも、旅館で過ごした時間は特別な思い出になったと思います。

楽しかった余韻を味わう間もなく、すぐ日常に戻ってしまったけれど、これからもこのクラスで楽しい日々を過ごしていきたいです。

# ３年生合宿研修報告

## 金沢合宿研修

**建築学科　3年　竹田　昊史（たけだ　こうし）**

秋晴れの空の下、建築学科の合宿研修で金沢へ一泊二日の旅に出かけました。明石からバスに揺られること４時間、最初の目的地は福井のおさかな街。昼食休憩を取り、新鮮な海の幸を堪能しました。

腹ごしらえを終え、いよいよ金沢へ。まず訪れたのは、石川県立図書館です。近代的な外観と、木材を多用した温かみのある内装が印象的でした。特に、自然光を効果的に取り入れた天井は、建築学科の私たちにとって非常に興味深いものでした。構造や素材、光の入り方など、細部まで観察し、今後の設計活動に活かせるヒントを探しました。

続いて、金沢21世紀美術館へ。特徴的なガラス張りの円形建築は、開放感があり、周囲の景観と一体となった美しい空間を創り出していました。館内での現代アートだけでなく、それ以上に建築そのものにも注目してしまいました。

二日目は自由行動。金沢駅周辺を各自で散策しました。兼六園やひがし茶屋街など、歴史的な建造物が多く残る金沢の街並みを歩き、それぞれの時代背景や建築様式について考察を深めました。

今回の合宿研修を通して、私たちは金沢の歴史と文化に触れるとともに、建築の奥深さを改めて認識することができました。特に、石川県立図書館と金沢21世紀美術館では、実際の巨匠の建築に触れ、学ぶことの重要性を再認識しました。この経験を活かし、今後の学習活動に励んでいきたいと思います。今回の合宿研修で得た学びを今後の設計に活かしていきたいと思います。

# ５年生見学旅行報告

## 見学旅行を終えて

**機械工学科　5年　佐藤　正梧（さとう　しょうご）**

私たち機械工学科５年生は10月下旬、見学旅行として九州南部（熊本・鹿児島）を周遊しました。

見学旅行は熊本地震の爪痕残る熊本城の観覧から始まり、ISEKI・サントリー・種子島宇宙センター・桜島国際火山砂防センターといった機械工学科と密接に関わる施設を訪れました。見学中、これまでの学びとの結びつきを随所に感じ、明石高専入学前の自分とは５年間で視点が変わっていることを実感するばかりです。

また、通潤橋や仙厳園の見学、桜島や種子島の風景、球磨川ラフティングなど自然との触れ合いも多く、比較的都会に位置する明石高専に通う身として貴重な体験ができたことも今回の見学旅行の魅力でした。

特に、荒天続きの中で唯一晴天であった種子島の夜空一面に広がる星々は形容しがたいほどに美しく、今この場に写真として皆さんに共有できないことを大変残念に思います（代替写真は通潤橋）。

新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン授業から始まり、１年生合宿研修もなくなってしまった私たちではありますが、今回の見学旅行で幾分か取り戻せたような気がします。

## 北海道4泊5日の旅

**電気情報工学科　5年　田口　友菜（たぐち　ゆうな）**

私たち電気情報工学科は、北海道の函館・登別・小樽・札幌に行ってきました。１日目は、函館空港から五稜郭に向かいました。夜には、函館山からの夜景を見に行きました。夜景は写真で見るよりもとても感動的でした。２日目は、日本新三景の一つである大沼国定公園を訪れた後、洞爺湖で遊覧船に乗ったり、有珠山や昭和新山を見学したりなど、豊かな自然を満喫しました。３日目は、ウポポイ国立アイヌ民族博物館に行き歴史を学びました。その後は小樽を自由散策し楽しみました。４日目と最後の５日目の午前は各自で自由研修でした。各々行きたいところに行き、やりたいことをしたりと、たくさんの思い出に残る体験をすることができました。

この５日間は、長かったようでとても短く感じ、高専生活の中で特に充実した時間を過ごすことができました。クラスメイトとは５年間ともに過ごし、既にたくさんの思い出を共有していましたが、さらに多くの思い出を作ることができたことは貴重な経験になりました。

# ５年生見学旅行報告

## ５年生見学旅行を終えて

**都市システム工学科　5年　瀧　朔弥（たき　さくや）**

卒業の時がだんだんと近づいてきた５年生後期、私たち５年都市システム工学科は10月21日から10月25日までの５日間に北海道へ見学旅行に行ってきました。1日目の函館観光では五稜郭や函館山での絶景、札幌ではジンギスカンや海鮮、小樽では運河や食べ歩きグルメなどの名所や名物を堪能することができました。私個人としては、函館山からの帰りのバスがなくなり、友達７人で熊に怯えながら徒歩で下山したのが忘れられない思い出になりました。

また、観光だけでなく北海道新幹線の倶知安駅高架橋や二ツ森トンネル、明治高架橋の現場見学も良い思い出となりました。高架の上に登ったり、施工中のトンネルを実際に歩いたりして、将来社会基盤に携わるものとして、この現場を間近で見ることができたことは貴重な経験になったと感じています。

もちろん、旅程の万事が計画通りというわけでなく、大雨で予定の大幅な変更や、時間になっても人が来ないなどのトラブルも多々ありましたが、それもある意味５Ｃらしさがでた旅行といえるのではないでしょうか。確かにいえることは、この旅行は私たちの５年間を総括したかけがえのない思い出となったということです。

## 釜山旅行

**建築学科　5年　福田　一晟（ふくだ　いっせい）**

５年建築学科は、10月21日から25日にかけて見学旅行で韓国の釜山に行ってきました。初日は博多からフェリーで日本海を渡り、夜6時ごろに釜山港に到着しました。釜山の夜景はとても綺麗で、橋、ビル、山が織りなす街並みの規模が日本では見ることのできない壮大さで、感動したことを覚えています。

２日目は朝から強風と大雨に見舞われましたが、バスに乗って海東龍宮寺に行きました。日本の寺院建築とは違った意匠性のある、海に面した寺で綺麗な場所でした。

４日目にあった自由時間には、旅行好きな友達の案内で、市バスと地下鉄に１時間ほど乗って美術館とカフェ、そして超高層ビル「エックスザスカイ」に行きました。すぐ近くの山の頂上よりも高い場所にほんの数十秒で登れたことに感動しました。

私たちの学年は入学時に新型コロナウイルスが流行し、海外に行く機会がない世代でした。そのため、今回の見学旅行では隣国ではありますが、韓国の歴史や文化に触れる機会を得ることができ、良い経験となったと思います。なにより、五年間ともに過ごした友達と夜更かししたり、ご飯を食べに行ったりしたことが、残り少ない高専生活の中で貴重な思い出となりました。

# 各種大会・コンテスト報告

## 夜明けを目指して　～ロボ研としての歩み～

**機械工学科　4年　上田　桂資（うえだ　けいすけ）**

今から約４年前の部活動見学で運動部の先輩にこう言われました。「陽キャになりたいならここへ、陰キャになりたいならロボ研へ。あそこはブラックだから」。そして僕は陰キャになりました。

活動の中で、ロボ研は努力できる環境であると実感しました。何事も全力で取り組む以上は苦労が付きものであり、全力を投じた末の「ロボ研は大変」という評価は私たちにとって勲章そのものです。

高専ロボコンでは半年の開発期間でアイデアを考え一から作り上げます。夏休みも毎日のように活動し常に全力で取り組み続けました。

また、私は３年後期より部長を務めました。第一に考えていたのは環境整備です。活動時間や、活動場所の整備などで真にロボコンに専念できる環境を目指しました。また人との繋がりを大切にしました。OBOGとの交流会や現時点でのロボットを実演する試走会を行い、色々な人と交流し意見をもらう環境を作り、更に大会後には全国のロボコニスト、OBOG、協賛企業の方が集まる全国ロボコン交流会に参加し交流を深めました。

このような環境が整っているロボ研は激務の先に技術者としての成長があります。そんなロボ研をこれからもよろしくお願いします。

最後に、僕たちがロボコンをできたのは先生方、OBOG、なにより最前線を共にしてくれた仲間のおかげです。ありがとうございました。

# 各種大会・コンテスト報告

## デザコンを通しての学びと成長

**建築学科　4年　大島　桃夏（おおしま　ももか）**

今回、デザインコンペティション創造部門で審査員特別賞を受賞しました。私たちのチームは、2050年に向けた脱炭素の取り組みとして、地域通貨と筋トレを組み合わせ、多くの人が健康で豊かな生活を送りながら街全体で脱炭素を実現する「マッスルチャージ」というシステムを提案させて頂きました。

私にとって、コンペへの参加はほぼ初めての経験であり、さらにチームをまとめる役割を担いました。この役割を通して、自分の弱点や課題が浮き彫りになり、大きな壁に直面する場面もありました。

特に、本戦の準備期間では、チーム全員が忙しい中、スケジュール通りに準備を進行させることができず、自分の指揮力や調整能力の未熟さを痛感し、もどかしい思いをする場面も多かったです。それでも、チームメイトは根気よく協力してくれ、さらに先生方や友人からのアドバイスにも支えられながら、無事に完成させることができました。

今回の受賞は、間違いなく私一人では成し遂げることができませんでした。メンバーひとりひとりの努力と支え合いの精神があったからこそ形になったものだと強く実感しています。この経験を糧に、さらなる挑戦へと踏み出し、より高い目標を目指して努力し続けていきたいと思います。最後に、このプロジェクトに関わり支えてくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。

## 高専英語プレコンに参加！

**建築学科　3年　松浦　実花（まつうら　みか）**

私は11/9、11/10に開催された高専英語プレゼンテーションコンテスト近畿大会のシングル部門に参加しました。夏休み中から11月の本番まで毎日プレコンに参加する仲間とハーバート先生で練習をしていました。いままで学んだことのなかったジェスチャーやアイコンタクトなどのプレゼンテーションで必要な技術を向上させることができました。今回、私はSA（Student Ambassador）の活動を通して学んだことをテーマとして発表しました。当日はベストを尽くすことができ、舞台に立って多くの人々の前で発表するのはとても楽しかったです。残念ながら賞をいただくことは叶いませんでしたが、今回の悔しさを糧にこれからさらに技術を磨いていきたいです。

応援してくださった方々、一緒に練習をしたメンバー、ハーバート先生、たくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

## アイデアを形に！DCONで社会課題解決に挑む

**電気情報工学科　4年 友田　大揮（ともだ　ひろき）**

DCONは、社会問題解決を目指したAI搭載ハードウェアを現役ベンチャーキャピタルの審査員にプレゼンし、起業した場合の企業評価額で競い合うユニークなコンテストです。

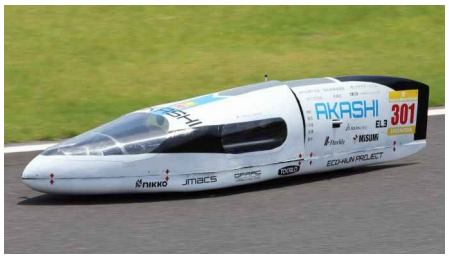
私が所属した本選出場チームは、製品が形にならない(?)困難な状況下でしたが、自分が出せる力全てで挑みました。無念な結果には終わりましたが、プレゼン技術やチームワークの重要性など、社会に必要な多くの学びを得ることができました。この経験を通じて、組織内の自分の役割について考えるいい機会になりました。

AIに興味がある方にはDCONは絶好の機会です。日本を代表するAI研究者・松尾豊先生も携わり、規模が年々拡大しているこのコンテストでは、最前線のAI技術やトレンドを学ぶことができます。また、コンテストを通じて普段意識しないビジネス視点を身につけるチャンスでもあります。さらに多くの学生や企業関係者、才能ある人々と出会えるのも魅力の一つです。新しい刺激を受けながら、自分の可能性を広げてみませんか？

# 各種大会・コンテスト報告

## エコランも!?勝ったよ

**機械工学科　4年　西本　悠晄（にしもと　はるあき）**




毎年出場している燃費を競うエコマイレッジチャレンジで今年度から新設された、より環境に配慮した燃料であるCN（カーボンニュートラル）燃料を使用するクラスに出場しました。新設のクラスで優勝することを目標に、チーム一丸となってマシンの改良に取り組みました。

特にCN燃料に対応するエンジンの制御が難しく、対照実験を行い、制御を見直す工程の繰り返しでした。何とかマシンを走行可能にしたものの燃費を競うにはほど遠い状況でした。それでも妥協せず低燃費を追い求め、大会まであまり日もない中、何度もエンジンの制御を見直し、迎えた大会当日。大会では大きなトラブルなく完走することができ、チームで作り上げたマシンの仕上がりの高さを実感しました。気になる燃費は433km/Lでクラス優勝を果たしました。昨年での問題点を改良するため一年弱という期間においてマシンの大部分を占めるマシンフレームとカウルを一新し低燃費マシンとして高い完成度を実現できたのもチームとしての技術力に加えて、顧問の先生方、OBの方々やエコランプロジェクトを支援してくださっている方々の協力と応援で勝ち取ったものです。本当にありがとうございました。

# 海外留学報告

## 短期留学（乂'ω')ﾀﾞﾒｰ、長期留学（ ^ω^)b

**電気情報工学科　2年　加藤　優太（かとう　ゆうた）**

「長期留学が一番だ」と断言します。僕はYFUのプログラムで１年間、ドイツの高校に留学しました。費用の大半はローン、借金であり、留年も伴います。そのうえでも僕に留学は必要でした。この経験を語らせてください。

まず、最初の一か月ごろはいつも怖かったです。学校の友達からは本当の仲間ではないという隔たりを内心感じていました。ですが、自分の元の価値観を文字通り捨てて、現地人の真似をすることで、それは楽しい毎日に変わりました。新しい価値観を実践するときにはいつも変化を抑えたい本能がありましたが、それを乗り越えると好反応が得られるようになるのでした。この実践によって、僕は真に彼らの価値観を理解できました。そうして、半年もするころには僕から働きかけることなく、相手から遊びに誘ってもらえるようになります。僕の変化によって、彼らから真の仲間として認められたのでした。

この経験から、僕は日本人に囲まれた国際交流や１か月程度の短期留学じゃだめだと強く思うようになりました。相手の価値観を受け入れなくても何とかなる、すぐに終わるような環境で、真なる理解は不要でしょう。確かに新しい世界を知ることはできますが、本当に「ずっと一緒にいられる仲間」として相互に認めあえるのでしょうか？もちろん最初は好奇心と優しさをもって接してもらえますが、それがなくなった後の話です。

長期留学は、国外で一人で自分の居場所を作れるという自信になりました。

僕の人生は長期留学なしでは語れません。あなたもぜひそんな経験を味わってみてください。

## 一年間の交換留学を通して学んだこと

**建築学科　3年　後藤　歌子（ごとう　うたこ）**

私は2023年の夏から2024年の夏にかけて一年間、交換留学生としてドイツへ留学しました。

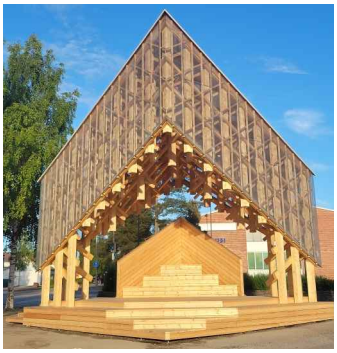
留学して初めの頃は初めて見るもの、初めて知ることばかりでワクワクする反面、慣れ親しんできた常識と違うことに対して戸惑いや抵抗もあり、日本が恋しくなることが何度もありました。しかし受け入れてくれたホストファミリーをはじめ、沢山の人の温かさに触れながらドイツでの生活に適応していくにつれ、その違いを楽しめるようになっていきました。異文化に触れること、自分の知らない世界を知ることの楽しさを知ったことで、興味が広がり、もっと知りたい、様々なことを自分の目で見て体験したいと思うようになりました。また、現地の人や、他の国からの留学生と交流していくなかで、日本を好きだと言ってくれる人が沢山いるのだということを実感しました。日本を褒めてくれたり、日本を好きだと言ってもらえることはとても嬉しく、日本人であることに誇りを持て、日本がさらに好きになりました。

この一年間で沢山の人に出会い、沢山のことを知り、多くの貴重な経験をすることができました。またコミュニケーションをとるのも一苦労である環境で一年間を過ごし、沢山の困難を乗り越えたことで、精神的にも大きく成長できたと感じています。今では一年間という長い期間の留学に挑戦して良かったと心の底から思うと同時に、また更に新しいことに挑戦していきたいと思っています。

# 国際交流活動報告

## 挑戦と成長のフィンランド留学

**建築・都市システム工学専攻　1年　藤本　奈緒（ふじもと　なお）**



昨年９月から１年間、「官民協働海外留学支援制度 トビタテ！留学JAPAN　大学生コース」を利用してフィンランドに留学し、木造建築を学びました。９か月間アアルト大学の「Wood Program」に参加し、実際に屋外ステージを設計・施工するプロジェクトに取り組み、その後３か月間、現地の設計事務所でインターンを経験し、実務的なスキルを磨く機会にも恵まれました。

留学中は知識不足や言語の壁に苦労することも多く、自信を失いかけた日もありました。しかし、「トビタテ生」としての立場が後押しとなり、普段よりも積極的に行動することで、多くの学びを得られたと感じています。特に、現地のボーイスカウト活動に参加し、明石城ペーパークラフトのワークショップを主催させていただけたことは、文化交流の楽しさと建築の魅力を改めて実感する良い機会となりました。

留学を通じて、建築の新しい可能性や木材の魅力に触れたことは、私の大きな成長につながりました。特に、施工を成功させた経験から、建築を通じて社会に貢献したいという思いが一層強くなり、帰国後は、日本における木材のデザイン研究に取り組むとともに、就職活動を通じてその夢の実現を目指しています。

## タイの高校に留学してきました！

**電気情報工学科　3年　池淵　菜花（いけぶち　なのは）**

８月後半の２週間、提携校のプリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール(PCSHS)パトゥムターニー校とトラン校に短期留学しました。タイの人たちは皆とても優しく面白い人ばかりでした。パトゥムターニー校ではバディの制度が無く不安でしたが、食堂で私の近くにいた生徒がメニューや注文の仕方を教えてくれました。どちらの学校でも常に周りに人がいてくれて、とても心強かったです。

またタイ人は感情の表現が日本人に比べて素直だと思いました。生徒や先生だけではなく、街の店員さんも私がタイ語を使うと笑って喜んでくれました。とても会話ができるレベルではありませんでしたが、たとえ1語でも相手の言語を話そうとすることに意義があると感じました。私たちは普段英語を主に勉強していますが、興味のある言語があれば手を出してみるのも良いと思います。

他にもタイに行ってみて、寮に虫が大量発生したり、シャワーが常温の水だったりと普段の生活では味わえないことも多く、充実した２週間でした。すべて忘れることのない良い思い出です。

最後になりますが、この場をお借りして本プログラムに関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

## フィリピン研修を通して学んだこと

**建築学科　3年　乾　翔太（いぬい　しょうた）**

僕は明石高専とフィリピンにあるデ・ラサール大学との交換留学研修に参加して沢山の事を学びました。今まで留学経験０だった僕が学んだことは大きく２つあります。

１つ目は、英語を率先して使うことでどこでも人とコミュニケーションをとることに自信がつくことです。研修中の生活は目に入るものほとんどが英語の生活でした。もちろん現地の学生や人々が使うのも英語またはタガログ語でした。そこで自分の感じたことや意見を伝えるためには積極的に英語で話しかけに行く必要がありました。それらの機会を通して、人とのコミュニケーションをとることに自信が付きました。

２つ目は、海外の文化・歴史を学びました。僕は建築を専攻していることもあり、フィリピンでは、たくさんの建築物にも目を光らせました。中でも、国立博物館では昔使われていた衣服や住宅の模型等が展示されており、実際に目で見て学ぶ事が出来ました。他にもたくさんの地へ足を運び、このように食事や建物を通して日本と気候や言語など色々な違いのある海外の文化・歴史を学べました。

このように僕は、フィリピンという地で笑いあり涙ありの思い出や良い友達を２週間でたくさん作る事が出来ました。留学は今までにない経験を積ませてくれる機会だと思います。いつかまた海外へいって沢山の事を学びたいです。

# 図書館より

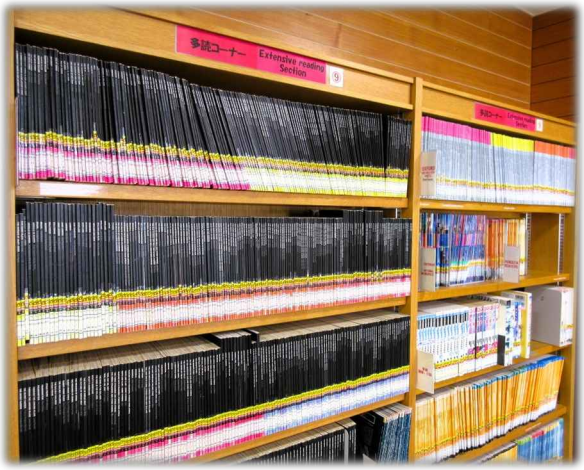
## 小説風　図書館ガイド

情報メディアセンター長　穐本　浩美（あきもと　ひろみ）

　もっと図書館を利用すればいいのに。
ヒロミはいつも図書館に学生がないことを残念に感じている。彼女は週に三冊くらい本を読むので、読んだ本について語り合える友人がいないことも寂しい。
　この日も借りていた本を返却すると、スタートアップ書籍がならぶコーナーに足を向けた。

「本好きなんだね」
　書棚をながめていると背後で声がした。あきもと先生だ。
「あきもと先生もスタートアップの本が好きなんですか」
　彼はあいまいに首をふる。
「どちらかと言うとイノベーション関係は少し苦手」
「おもしろいですよ。司書の喜田さんがポップをつけてくださっているから本を選びやすいんです。私、このコーナーの本、ほとんど読みました」
「すごいね。起業したいの」

「そうではなくて、本ならどんなジャンルでも読むんです」
「僕はこっちの方が好きだけど」
　どこか懐かしい故郷の風景をながめるように彼が視線を注いだ先には古典新訳文庫のコーナーがあった。『ジキルとハイド』や『自負と偏見』、『嵐が丘』なんかがならんでいる。有名なものは読んだことがある。あきもと先生は年齢いってそうだから古い本が好きなのかもしれない。先生はいくつですか、と聞きそうになったが、ヒロミはその質問を別の言葉に変容させた。
「何冊か読みましたけど話があっちこっちに飛んでわかりにくいものが多かったです」
「例えば？」
「レ・ミゼラブルは一巻で挫折しました。あれは自分で買った本なのでもったいなかったです」
　長大な本をあきらめたあとには、挫折感に加え象の背中のような分厚い本が残る。
「あの本は五巻ほどあるけれど、アメリカの作家が枝葉を削ぎ落したら一冊か二冊にまとまったらしい」
「紙の無駄ですね。主人公が隣の家に遊びに行くだけで五十ページも使っているんですから」
「何でそんなに長くなっているのかな」
「隣の家に行くまでの家並みや街路樹なんかの情景描写です」
「長編は確かに読みにくいけど、オー・ヘンリーの短編は読みやすくて面白いよ」
「オー・ヘンリーはいいですね。『賢者の贈り物』はよかったです」
「でも今回の古典新訳では訳し方がユーモア路線になっているから、古い翻訳でオー・ヘンリーを読んだ人の受けはあまりよくないみたいだけど」
「そんなものですか。翻訳を読み比べるというのも外国文学の楽しみのひとつですね」
「読み比べもいいけど英語そのもので読むのもいいよ」
　あきもと先生は少し離れた所にあるコーナーを指さした。
「多読コーナー？」
　英語の多読書が書棚をうめつくしている。居並ぶその黒の背表紙は知的武装した外国の兵隊を思わせた。




「どんなタイトルがあるんですか」
「イギリスやアメリカの文学作品のリトールド版やサイエンスフィクションにノンフィクション、歴史物や著名人に関するものとか」
「何だか雑多ですね」

# 図書館より

「ジャンルを選ばない君のような学生にはぴったりかもね」
「英語の勉強になりますか」
「多読書はレベル別に分類されていて、高専生ならレベル３あたりから読みはじめたらいいと思うよ」
「でも私、英語があまり好きじゃないんです」
「だめだよ、そんなこと言ってたら。この学校はグローバル高専なんだから」

「私が英語苦手なのはあきもと先生がイノベーション苦手なのと同じです」
　ちょっと口が過ぎたかもしれない。
「学科推薦図書は学生たち読むのかな」
　ヒロミの言葉を気にする様子もなく、彼は学科推薦図書に目をうつしている。
「結構読んでいると思います。役に立つものありますから」
「カーボンニュートラル、グリーンインフラ、オープンサーキット・・・」
　あきもと先生はタイトルを口にしたあと嘆息した。
「これも苦手分野なんだ」
「先生は苦手分野が多いんですね」
「そうじゃなくて得意分野が少ないんだね」
「サイバーセキュリティやハッキングなんかはどうですか」
「まったくだめ。僕はこの学校でIT最弱人間なので」
「なのに情報メディアセンター長してていいんですか」
　また言い過ぎた。ひやりとして話題を変える。
「先生、AI革新が進むと世の中から本も本屋さんも図書館もなくなるんじゃないでしょうか」
　そんなヒロミの言葉は目の前の書棚におかれたアクリルスタンドに映り跳ね返された。そのスタンドには校長先生のおすすめコーナーというポップが踊っていた。

## 本から広がる世界

**電気情報工学科 4年　新庄　都逸（しんじょう　とばつ）**

　私は今回、２年ぶり２回目のブックハンティングに参加しました。ブックハンティングとは、学生自らが大型書店に出向き、図書館に納入する書籍を選ぶイベントです。本校図書館には多くの書籍や資料が所蔵されていますが、出版年代の古いものも少なくありません。特に、急速に発展する技術分野では物足りなさを感じることもあります。そのため、ブックハンティングは、学生自身の視点で選書できる貴重な機会となっています。
　今回私が選んだのは、アメリカの心理言語学者であるビブリカ・マリアンが著した『言語の力』という一冊です。この本では、多言語話者が持つ認知の広さについて述べられていますが、その内容は「言語」だけでなく「学問分野」にも通じると感じます。多様な分野の知識を得ることで、それらが脳内で繋がり、脳を活性化させることができるのです。私はこの本を読んで、人間の脳とニューラルネットワークの類似性に気付き、身をもってニューロンの発火を実感することができました。ニューラルネットワークは人間の脳を模して設計されているのですから、その類似性は当然の帰結とも言えますが、この気付きは私に新たな発見を与えてくれました。

　このように、本との出会いは自身の思考を広げるきっかけとなります。ブックハンティングに参加し、自身の好奇心を擽ってみてはいかがでしょうか。

# 校内短信・行事予定・学生表彰

## ●校内短信

| 月/日（曜日） | 行事 |
|---|---|
| 8月～9月 | 全国高専体育大会出場（於：北海道地区）<br>陸上競技部、卓球部、柔道部、剣道部、野球部、<br>サッカー部、ハンドボール部、テニス部、バドミントン部<br>全国高専体育大会入賞<br>陸上競技：女子800m　優勝　堤　円花<br>卓球：女子団体　3位<br>女子シングルス　3位　橋本　翠 |
| 9月17日（火） | 専攻科入学試験（学力選抜） |
| 9月24日（火） | 後期授業開始　全校集会 |
| 10月6日（日） | 近畿地区高専ロボットコンテスト<br>（於：舞鶴文化公園体育館 ）<br>2チーム出場<br>Aチーム：特別賞（東京エレクトロン株式会社）<br>Bチーム：特別賞（本田技研工業株式会社） |
| 10月13日（日） | 寮生体育祭 |
| 10月21日（月）～25日（金） | 5年見学旅行<br>機械：熊本・鹿児島　電気：北海道<br>都市：北海道　　建築：韓国 |
| 10月22日（火） | 2年バス旅行（宝塚大劇場） |
| 10月22日（火）～23日（水） | 3年合宿研修<br>機械：浜松・ナガシマスパーランド　電気：徳島・岡山<br>都市：愛知・ナガシマスパーランド　建築：金沢 |
| 10月23日（水） | 進路研究セミナー（4年） |
| 11月2日（土）～3日（日） | 全国高専デザインコンペティション(於：阿南高専)<br>空間デザイン部門：1チーム出場<br>企業賞（ベクターワークスジャパン賞）<br>創造デザイン部門：3チーム出場<br>うち1チーム審査員特別賞<br>構造デザイン部門：2チーム出場 |
| 11月9日（土）～10日（日） | 高専祭　高専祭代休：11月11日（月） |
| 11月9日（土）～10日（日） | 近畿地区高専英語プレゼンテーションコンテスト<br>（於：近大高専）<br>シングル部門：2名出場　うち1名2位<br>チーム部門：1チーム出場　2位 |
| 11月20日（水）～21日（木） | スポーツ大会　（11月20日 全校避難訓練） |
| 12月8日（日） | 高専女子フォーラム in 関西 2024 |
| 12月11日（水） | 寮生大掃除 |
| 12月12日（木） | 寮クリスマス会 |
| 12月15日（日） | 高専GIRLS SDGs × Technology Contest（高専GCON）<br>（於：日経ホール　東京・大手町）<br>本選：1チーム出場　ファイナリスト賞 |
| 12月25日（水）～1月5日（日） | 冬季休業（12月25日　閉寮、1月5日　開寮） |
| 1月16日（木） | Co＋work最終報告会 |
| 1月18日（土） | 入学試験（推薦選抜） |
| 1月25日（土）～26日（日） | 全国高専英語プレゼンテーションコンテスト<br>（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）<br>シングル部門：1名出場　特別賞（COCET賞）　藤沼　茉莉歌 |
| 2月3日（月）～7日（金） | 後期期末試験・専攻科後期試験 |
| 2月9日（日） | 入学試験（学力選抜・帰国生徒特別選抜） |
| 2月17日（月）～20日（木） | 学力補充期間 |
| 2月17日（月） | 専攻科特別研究審査発表会 |
| 2月18日（火）～19日（水） | 卒業研究審査発表会 |
| 2月21日（金） | 終業式 |
| 2月23日（日・祝） | 閉寮 |

**編集後記**

高濱虚子（たかはま・きょし）の代表句に「春風や闘志いだきて丘に立つ」がある。これは、虚子が、季語や五七五の定型にこだわらない新傾向俳句を主張する、河東碧梧桐（かわひがし・へきごとう）に対し、「季語を入れ、定型を守ることこそ、俳句である」として、真っ向から勝負を挑んだ際に詠んだものである。この闘志を抱き、激しく戦った結果、世間は虚子の主張する有季定型の俳句を認め、それが俳壇の主流となる時代が訪れたのである。今回の学校だよりでも、「闘志いだきて」立ち向かい、大いなる実を得た投稿が多く見られた。是非、今号を読まれた学生の皆さんが後に続いて欲しい。一歩を踏み出すのには勇気が必要かもしれない。しかしその勇気こそ、自身と社会を変革させていく。春風が明石に吹いている。更なる活躍を切に願っている。（裕紀）

## ●行事予定

| 月/日（曜日） | 行事 |
|---|---|
| 3月20日（木・祝） | 第59回卒業式・第28回修了式 |
| 3月20日（木・祝）～31日（月） | 学年末休業 |
| 4月3日（木） | 第64回入学式　開寮・入寮式 |
| 4月4日（金） | 始業式　専攻科オリエンテーション |
| 4月7日（月） | 前期授業開始 |
| 4月10日（木） | 健康診断 |
| 5月14日（水） | 寮祭 |
| 5月17日（土） | 後援会総会・役員会 |
| 6月12日（木） | 専攻科入学試験（推薦選抜） |
| 6月21日（土） | 明葉祭（文化発表会） |
| 6月21日（土）～7月18日（金） | 保護者懇談会 |
| 6月～7月 | 近畿地区高専体育大会 |
| 7月22日（火）～7月25日（金） | 学校見学会 |
| 7月28日（月） | 編入学試験 |
| 7月28日（月）～8月1日（金） | 前期期末試験・専攻科前期試験 |
| 8月2日（土）～3日（日） | オープンキャンパス |
| 8月5日（火）～7日（木） | 前期答案返却期間 |
| 8月7日（木） | 全校集会 |
| 8月8日（金）～9月23日（火） | 夏季休業 |
| 8月9日（土） | 閉寮 |
| 8月～9月 | 全国高専体育大会<br>（於：九州・沖縄地区） |
| 9月12日（金）～22日（月） | 補充履修期間 |
| 9月16日（火） | 専攻科入学試験（学力選抜） |
| 9月22日（月） | 開寮 |
| 9月24日（水） | 後期授業開始・全校集会 |

## ●学生表彰

**学術奨励賞**

第4回近畿学生住宅大賞
最優秀賞
建築学科5年　増本　唯衣

土木学会査読付き論文「河川技術論文集」への掲載
建築・都市システム工学専攻2年　藤原　太輝

**課外活動優秀賞**

第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技
女子800m　優勝
電気情報工学科1年　堤　円花

SAGA2024 国民スポーツ大会スポーツクライミング競技
リード競技：少年男子4位
ボルダリング競技：少年男子13位
第78回国民スポーツ大会近畿ブロック大会
スポーツクライミング競技：少年男子1位
第78回兵庫県民スポーツ大会
スポーツクライミング競技：少年男子2位
都市システム工学科3年　隅谷　樂

**特別賞（在学中に3回以上学内表彰を受けたもの）**

建築学科5年　田中　大登
過去の学内表彰
・令和4年度　課外活動優秀賞
中央工学校主催第16 回高校生対象コンペティション：佳作
・令和5年度　課外活動優秀賞
第12回ものつくり大学高校生建設設計競技：1位
・令和5年度　課外活動優秀賞
ランドマークコンペ＠福井市問屋町：最優秀賞

建築学科5年　増本　唯衣
過去の学内表彰
・令和4年度　課外活動優秀賞
秋田県立大学全国高校生建築提案コンテスト2022：優秀賞
・令和4年度　課外活動優秀賞
第13回高校生の建築甲子園：教育・事業本委員長特別賞
・令和5年度　課外活動優秀賞
第12回 ものつくり大学高校生建設設計競技：2位